

農と食とコミュニティ

東出 隆さん
(空知生命塾主宰)

札幌近郊の岩見沢市で、定年退職後に「半農半塾」を掲げて老後の生活をしている 71 歳の老人です。半農半塾とは、塩見直紀氏の「半農半 X という生き方」(ちくま文庫)を参考に、農的な生活(老年で新規就農は難しいので自家菜園や農家のお手伝い)を含み、他はどんなことでも自分のやりたいこと(X)をする、という考え。「農と食を身近に、かつ他者ともつながり、循環して愉しく生きる」ことを目指しています。

問題は、どういう仲間を作るかということ。大人の塾(子供が入っても構わない)をイメージして勝手に「空知生命塾」と宣言し、小さな勉強会(ワークショップ)を主催し、自費出版もしてきました。

コロナ禍で町内会等も小休止状態なので安心・安全な農作物を作る農家や、それらを販売する人々の中に広がる集まりにも参加しています。志が同じ方が多く、それが新しいコミュニティになり、逆に従来のさまざまな組織にも影響を与え始めていると感じています。

< 会員拡大と会費納入のお願い >

北海道食といのちの会は、みなさんの熱い思いと、いただいた会費が活動の基盤です。会員拡大のため、ぜひお近くの方に声かけをお願いします。会費は下記から納入を願います。

- 振込先：ゆうちょ銀行振替口座
 ■ゆうちょ銀行(郵便局)の場合
 口座記号番号：00160-4-674332
 口座名称：北海道食といのちの会
 ■ゆうちょ銀行以外の場合
 店名(店番)：〇一九店(019)
 預金種目：当座
 口座番号：0674332

○年会費の区分は次の通りです。

- | | |
|--------------------|------|
| 1) 個人 | 1 千円 |
| 2) 構成員が 100 名未満の団体 | 3 千円 |
| 3) 構成員が 300 名未満の団体 | 5 千円 |
| 4) 構成員が 300 名以上の団体 | 1 万円 |

「複合汚染」から 40 年

滝沢 由美子さん

食の安全に意識が向いたのはとても遅く、福島原発事故後のことでした。食品表示を見るうちに疑問を持ち始め、添加物や農薬、除草剤と遺伝子組み換え食品のセットについてなど、いのちの会のおかげもあり、一介の主婦なりに徐々に理解が深まっているところです。

「複合汚染」という本を読みましたが、発行は 40 年以上前のこと。今はどれほど酷くなっているのか改めて心配になります。

6 年ほど前から化学物質過敏症になり、生活に不自由を感じ、同じように困っている人となつたことで、柔軟剤など合成香料問題にも気づきました。海外で裁判沙汰になり、規制の緩い日本に集まってくるという構造は、根っこは食の問題と同じように思います。

市民の一人としてこの状況をなんとかしたい、できることを探して声を上げ続けたいと思います。

北海道食といのちの会のフェイスブックには右の二次元コードからお入りください。



< ご寄付のお願い >

食はいのちの源です。次の世代に安全・安心な環境と食を残すため、活動をご支援ください。ご寄付は 1 口 1 千円から。いのちの会を支えるサポーターとして熱いご支援をお寄せください。振込口座は下記の通りです。

- 北洋銀行宮の沢支店 店番：137
 普通預金口座：3266036
 講座名義：北海道食といのちの会

北海道食といのちの会

会 長 久田 徳二
 事務局(事務局長 山崎 栄子)
 札幌市厚別区大谷地東 1 丁目 4 番 15 号
 生活クラブ生活協同組合北海道内
 電 話： 011-887-8891
 メール： mito@club.s-coop.or.jp
 フェイスブック：
<https://www.facebook.com/Hokkaido.Syoku.Inochi513/>



衆議院農林水産委員会で参考人として有機農業の振興に熱弁をふるう瀬川副会長＝2022 年 4 月 19 日

1 月 8 日に亡くなった北海道食といのちの会副会長で、有限会社当麻グリーンライフ代表取締役の瀬川守さん(享年 71 歳)を偲んで、ゆかりの深い 2 人に追悼文をお寄せいただきました。

瀬川副会長追悼

有機農業に百姓魂を込めた

瀬川守さんに感謝

北竜町 黄倉良二

瀬川守さんは、当麻グリーンライフ代表者として有機農業を実践しながら、今から 32 年前の平成 3 年に農業

3 割削減を目標とした北海道クリーン農業、平成 13 年に道立農業試験場での有機農業技術確立、平成 16 年には北海道食の安全安心条例、遺伝子組み換え作物交雑防止条例制定などに、当時副知事の麻田信二氏、興農塾主宰の故本田廣一氏、私とともに、中心となって取り組んだ。

瀬川さんが晩年心血を注いだのは学校給食の問題だった。4 年前より子どもたちのいのち(生命)を守るために「学校給食に有機農産物を」の実現に向け、麻田氏の助言を受け、全国の実施状況を調査。令和 3 年 5 月、鈴木直道知事に①有機農産物栽培技術の普及②農業試験場での有機農産物の研究開発の促進③学校給食の農産物の使用状況調査と有機農産物の使用拡大一を北海道有機農業研究会の名をもって要請した。

北海道食といのちの会(久田徳二会長)は 6 月 10 日午前 10 時から、札幌エルプラザ(札幌市北区北 8 西 3)の 2 階環境研修室で第 3 回定時総会を開きます。

2 年目はゲノム編集トマト苗を受け取らないよう自治体に要望する活動が全国的にも高く評価されました。3 年目も①遺伝子操作生物の監視②危険な化学物質の抑制③有機農業などの振興一を活動の柱とする予定です。

総会后、午後 1 時 15 分から OK シードプロジェクトの印鑑智哉事務局長を招いた記念講演会「ゲノム編集とフードテック」(仮題)を開催します(3 面参照)

6 月 10 日に第 3 回総会

また令和 4 年 3 月には、当麻町で「学校給食に有機農産物を」のシンポジウム開催実現に奔走。元農林水産大臣山田正彦先生の講演、原村政樹監督制作の映画「食の安全を守る人々」の鑑賞、千葉県いすみ市の学校給食で有機農産物使用の報告を受けた討議などを行った。

4 月に参議院農林水産委員会において参考人として有機農業の価値について熱く陳述。当麻町に帰った直後から闘病生活に入った。瀬川守さんは、熱い有機農業者としての魂を多くの人々の心に残し、令和 5 年 1 月 8 日に 71 歳の生涯を終えた。心から感謝申し上げる。 合掌

瀬川副会長追悼

有機、勇気、有希 瀬川さんのゆうき人生

北海道有機農業研究会
事務局長 高橋伸行

人の心と考え方に影響を与える人。その人は瀬川さんでした。私が仕事のご縁で出会ったのは6年前。北海道有機農業研究会に携わることになったのも瀬川さんです。そこから多くの時間を側で過ごさせていただきました。瀬川さんの生き方、それは「食」に対する自分の理想を持ち、そこへ少しでも近づこうとする生き方。瀬川さんを紹介する代名詞はご存知の通り「有機」である。若い頃から「有機」の必要性を感じ、生産者の同志を募り、「有機」の底上げを図ってきた。20年以上前の時代、「有機」は「勇気」だったと瀬川さんから聞いた。煙たがる生産者も多い中、信念を貫く瀬川さん。自前で有機農業の6次化にも20年以上前から取り組む。有機作物を生産し、加工して販売する。その全てを自前で手掛けてきた。机上の論者とは違う、考えて実際に行動してきた人には敵わない。なかなか理解されなかった「有機」を消費者からも育てようと尽力された会が北海道有機農業研究会だった。生産者を育て、消費者にも「有機」を伝えて有機の輪を広げていく。



手塩にかけたシシリアンルージュトマトに囲まれ笑顔の瀬川さん。その後、同品種のゲノム編集トマトが開発され、栽培を断念した時は無念そうでした

消費者と有機の産地を訪問して、見て、知り、学ぶ。瀬川さんのもとには多くの方々が訪れた。圃場見学も多かった。来る者拒まず、去る者追わず。包み隠さず伝えていく。

若いころは地元当麻町の町おこしにも尽力されていたと聞く。そして数えきれない多くの「会」にも属していた。旗を持たせて後ろから見ているタイプではなく、自ら旗を振るタイプの瀬川さん。亡くなる3カ月前のこと、新しい夢を聞かせてくれた。瀬川さんにとって「有機」ではなく、希望溢れる「有希（ゆうき）」だったのかもしれない。いつまでも夢見人でありたい。瀬川さん、ありがとうございました。

有機農業 瀬川さん死去

当麻「第一人者」惜しむ声



瀬川守さん

【当麻】町内で大規模有機農業に取り組む農業生産法人「当麻グリーンライ」の代表取締役、瀬川守さんが8日、消化管間質腫瘍GIST（ジスト）のため71歳で死去した。生産者や研究者でつくる「北海道有機農業研究会」の代表として農業や化学肥料を使わない有機農業の普及に尽力した。関係者から惜しむ声が上がった。

瀬川さんは町出身。幼少期に農業で体調を崩した経験から「安心安全な野菜を作りたい」と、1990年頃から本格的に有機農業を始めた。98年には同法人を設立し、現在はコマや豆類、トマトなど17品で多品目を栽培する。毎年秋に町内で有機野菜の販売会を開いて消費拡大に力を入れ、後進の育成にも励んだ。同法人で学び、現在は比布町で有機トマトを作る今野勝貴さん38は「『素晴らしい農業を次の世代に』と熱心に語っていた。その思いを私たちが継承したい」としのんだ。

北海道の有機農業の「第一人者」の死去を伝える北海道新聞＝2023年1月11日

昨年4月には国会に参考人として呼ばれ、2050

ゲノム編集トマト全道自治体要請第2弾

「受け取らない」計31%に

北海道食といのちの会が先駆けた「ゲノム編集トマトを受け取らないでほしい」との自治体要請活動は全国規模に拡大しましたが、当初の調査で「その他」と回答した自治体（96）に着目し、1月に要請活動第2弾を実施しました。

「回答結果の報告と新たなお願い」とする要請書を全道179自治体に郵送したところ、35自治体の回答が寄せられました。「受け取る」は依然ゼロでした。「受け取らない」は、前回との重複5を除くと、新規に14自治体が加わり、計56、全道自治体の31.3%になりました。

残る回答は「その他」16。うち11は前回も「その他」で、新規は5でした。前回と合わせて回答いただいた自治体は計144となり、全道の自治体の80.4%が回答してくれたこととなります。

引き続き、前回調査で「その他」と回答した中で、理由が「受け取らない」に近かった自治体については、さらに個別に対応する予定です。

子どもの健康は守られているか

化学Gも5月27日に講演会

北海道食といのちの会化学物質グループは3月19日、初の全体会合をリモート形式で開き、久田会長、役員を含む5人が今後の活動を協議しました。その結果、子どもの健康を脅かす危険な化学物質について学ぶ講演会を5月27日（土）に開催することとしました。

講演会は、同日午後1時20分から札幌エルプラザ3階ホールで開催します。「子どもの健康は守られているか」を全体テーマに、環境脳神経科学情報センター副代表の木村一黒田純子さんが「子どもを脅かす化学物質」、北海道がんセンター名誉院長の西尾正道さんが「がんの専門医が語る子どもの病気と生活環境」と題し

北海道食といのちの会は6月10（土）日午後1時15分から、札幌エルプラザ（札幌市北区北8西3）3階ホールで、OKシードプロジェクト事務局長の印鑰智哉（いんやく・ともや）さんによる講演会「ゲノム編集とフードテック」（仮題）を開催します。会費500円（会員無料）。

6月10日に印鑰さん講演会

ゲノム編集とフードテック

印鑰さんは、ブラジルでの環境運動をもとに食が健康や社会、生態系に与える影響などについて発信を続けています。ゲノム編集生物が、日本では無規制で商品流通が始まったことから「遺伝子操作ではない」タネや食品、農産加工品などにマークを貼る「OKシードプロジェクト」を呼びかけ、事務局長として全国で講演会などの活動をしています。

遺伝子操作食品にとどまらず、培養肉、培養母乳、昆虫食などがフードテックの名の下で開発され、食のゆがみが拡大してきました。印鑰さんはそうした動きにもいち早く、警鐘を鳴らしています。

会員のみなさんは周囲の方にぜひ参加を呼びかけてください。フライヤーは近く配布します。9日夕は、印鑰さんと会員の懇親会も予定しています。

講演します。資料代500円。多くの子育て世代の参加を願っています。当日の運営支援が可能な方は事務局に連絡ください。

このほか、化学グループは①除草剤の使用実態を知るための学校へのアンケート調査②除草剤などを一般に販売する流通事業者への質問状―などを検討しています。（武野 伸二）